

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 隅田 朗彦

研究課題		自動翻訳、自動採点ツールを利用した英語ライティング指導法の効果検証
報告の概要	研究目的 および 研究概要	目的：自動翻訳ツールや自動採点ツールを利用した英作文指導の新しい方向性を探る 概要：第二言語習得理論に基づく英作文指導法は、学習者が自身の持つ英語運用能力を最大限利用して作文をし、教師がフィードバックを与え、学習者が与えられたフィードバックを活用して作文を推敲することで、英作文の質の向上や英語運用能力の向上を目指すものであった。しかし、昨今の人工知能を用いた翻訳ツールや採点ツールの発展は、学習者がツールを補助的に利用しながら文章を作成することを可能にし、指導者がツールを用いて従来の添削を脱した新しい指導形態を採ることを可能にしている。今後は教室での英作文学習を考える場合、そのような人工知能ツールを活用した英作文指導の変革が必要になる。令和6年度は、したがって、発展途上の方法論に基づき新しい指導法を実験的に取り入れた学習活動を実施し、その効果を検証することを目的とした。
	研究の結果	自動採点ツールを利用した英作文指導の新しい方向性を探ることを研究の目的とし、実際の学習者にAIの自動フィードバックを用いた作文指導を行った。AIフィードバックについては、その方法論がまだ発展途上であるため詳細なデータにまとめるまでは至らなかったが、フィードバックを習得に結び付けるためには指導者のケアがかなり必要で、作文修正のための「意味的」なフィードバックに効果を期待することが難しいことが分かった。 また、現行学習指導要領下の高等学校検定教科書改訂版について、自己の研究分野であるライティングに関わる記述を中心に改訂を行った。
	研究の考察・反省	英語ライティング・フィードバック方法を実践したデータの分析が進み、実践結果の整理がついたことで研究発表や論文としての成果を残すことができた。さらに、これまでと異なる自動フィードバックを用いた学習環境における英語ライティング・フィードバック方法の実践結果から、訂正フィードバックに関わる新たな発見があり、効率的な英作文指導の方法論に発展を見出すことができたが、詳しいデータの分析を進める必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 1. The effects of focused written corrective feedback on the development of L2 writing accuracy. The 21st AILA World Congress. 2024年8月12日 2. 英作文学習における訂正フィードバックの効果：文法エラーの属性による効果の影響. 日本大学英文学科2024年度年次大会. 2024年12月14日
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究論文 Efficacy of Focused Versus Unfocused Corrective Feedback: Beginner-Level Learners' Development in L2 Writing. <i>Kate Journal</i> , 38, 15-28. 2024年9月1日発行。 出版教材 高等学校英語(論理・表現I)検定教科書『New Favorite English Logic & Expression I』改訂版(東京書籍)(令和7年度発行予定)